

都市再生整備計画 事後評価シート
斎宮跡周辺地区

平成30年3月

三重県明和町

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	三重県		市町村名	明和町	地区名	齋宮跡周辺地区			面積	215ha		
交付期間	平成25年度～平成29年度		事後評価実施時期	平成29年度		交付対象事業費	1,421百万円 国費率		0.45			
1) 事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		基幹事業	事業名 道路：(地)町道 坂本・齋宮線、公園：坂本古墳公園、史跡公園(八脚門広場)、史跡公園(下園東区画広場)、史跡公園(藤戸広場)、史跡公園(齋宮歴史ロマン広場)、地域生活基盤施設(情報係)：情報係整備(計画区域内全域)、高質空間形成施設(緑化施設等)：齋宮跡景観形成、散策道(柳原区画周辺散策道)、高次都市施設(地域交流センター)：(仮称)齋宮跡地域交流センター							提案事業	
	当初計画から削除した事業		基幹事業	公園：史跡公園(八脚門広場)	削除/追加の理由		関係機関との調整をするため別途調査が必要となり、整備時期を順延(後期計画に実施)するため削除した。					
	新たに追加した事業		基幹事業	公園：史跡公園(御館区画広場)	削除/追加の理由		来訪者の窓口となる齋宮駅に隣接した回遊拠点であるにも関わらず、多目的に利用できる広場が不足している現状であり、来訪者の利便性を向上させるため多目的広場の整備を実施した。					
			基幹事業	公園：史跡公園(篠林区画広場)	削除/追加の理由		広大な史跡内の様々な回遊ルートを想定した史跡活用調査結果に基づき、利便性を高めるため、回遊ルート上の三差路コーナー2箇所に来訪者や町民が休憩できる東屋及び広場(ポケットパーク)の整備を要望し、					
			提案事業	地域創造支援事業：幹線排水路等整備事業	削除/追加の理由		事業計画の見直しに伴い、幹線排水路等整備事業【効果促進事業】のうち都市再生整備計画重点区域内の整備箇所について地域創造支援事業に移行した。					
交付期間の変更		当初	平成25年度～平成29年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響								
		変更										
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ	
	指標1	イベント(まつり)の参加人数	人/年	7,400	H25 8,000 H29 8,000	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標2	ガイドボランティアの登録人数	人	24	H25 48 H29 48	50	45	×	あり	●	都市再生整備計画事業をはじめとした各種事業効果により来訪者が増えたことにより、ガイドボランティアの増員が図られたが、新たな問題として、メンバーの高齢化が深刻化してきている。、中間実績値より減少したことで目標達成には至らなかった。	平成31年3月
	指標3	来館者数	人/年	71,000	H25 84,000 H29 84,000	94,311	82,018	×	あり	●	計画的な公園整備及び高質空間形成の推進と、日本遺産認定、実物大復元建物3棟を含む「さいくろ平安の社」の完成も相乗効果となり、明和町の入込客数は大幅に増加したが、平成29年度は台風の影響で行楽シーズンの入込客数が落ち込んだため、目標達成には至らなかった。	平成31年3月
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1		ガイドボランティアの総案内件数	件/年	3,741	H25	5,000					
	その他の数値指標2		観光客入込客数	人/年	187,320	H25	220,268					
4) 定性的な効果発現状況		<ul style="list-style-type: none"> 安全な歩行空間の整備により、歩行者の安全性が向上し、道路案内標識の的確な案内により交通の円滑化が向上している。 統一された高質空間形成により、自発的に民間事業施設の色彩統一が図られている。 公園整備率により、近隣住民の公園利用者が増えたことにより地域コミュニティが形成された。 歴史的資源の公園整備とそれらを有機的に繋ぐ施設の整備などにより、愛着を持った地域住民のまちづくりへの参画があらわれた。 										
5) 実施過程の評価	モニタリング		実施内容			実施状況			今後の対応方針等			
			・交付対象市町において、観光客入込客数調査に基づき、目標の達成状況やその要因を確認・とりまとめを行い中間評価を実施。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後は、中間評価時に住民からの意見も取り入れることを検討する。			
	住民参加プロセス		・地元協議会と行政が連携しながら、協働による計画づくり、事業の検討や進捗状況など、官民連携による事業推進を行った。 ・整備区域内の地元自治会に対し説明会を開催し、意見聴取した上で事業の推進・実施を図った。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 次期計画においても同様に官民連携をとりつつ、地元住民の理解を得ながら円滑な事業推進を図る。			
	持続的なまちづくり体制の構築		・齋宮跡の魅力向上と来訪者の拡大を目標に発足した「齋宮跡来訪者アップ連絡会」では、齋宮跡に関係する団体がそれぞれの役割のもと、情報の共有化、情報の発信、受入体制の充実等を図り、共通した目標である齋宮跡の魅力向上と来訪者拡大のための戦略、戦略の検討を行うことでまちづくりに貢献している。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった			● 今後も継続的な活動を行うことで齋宮跡の魅力向上と来訪者拡大を目指す。			

様式2-2 地区の概要

斎宮跡周辺地区(三重県明和町) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値	
大目標:「斎宮跡」を核とした地域活性化と歴史・文化、観光資源を活かしたまちづくり 目標1: 斎宮跡地区内外の町民が斎宮跡の魅力により一層感じ、郷土に対する愛着を持てるまちづくり 目標2: 貴重な歴史的資源と豊かな自然環境を活かした高質空間の形成による、来訪者がまちの魅力を十分に堪能できるまちづくり	イベント(まつり)の参加人数	単位: 人/年	7,400 H25	8,800 H29	9,950 H29
	ガイドボランティアの登録人数	単位: 人	24 H25	48 H29	45 H29
	来館者数	単位: 人/年	71,000 H25	84,000 H29	82,018 H29

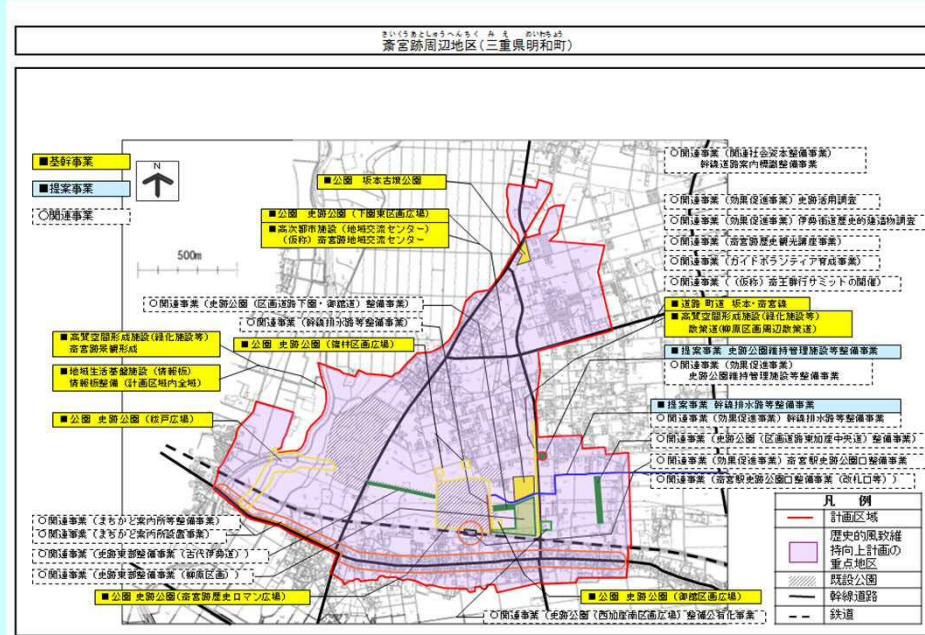
斎宮跡地域交流センター



坂本古墳公園整備



下園東区画広場整備



斎宮駅公園口整備



道路(坂本斎宮線)



斎宮跡景観形成



まちの課題の変化

・事業の推進による来訪者の増加に伴い、斎宮跡に愛着と親しみが生まれ、地域住民から新たなガイドボランティアの増員が図られたが、新たな問題として、メンバーの高齢化が深刻化してきている。
 ・斎宮駅北口の周辺整備や多目的広場、坂本古墳公園整備、地域交流センターの整備などで、有機的に繋ぐ施設の整備と活用が図られたが、斎宮跡周辺地区には地域住民によって守られてきた貴重な歴史的資源(観光資源)がまだ数多く存在していて、最大限に有効活用できていない。また、近鉄斎宮駅から北側の散策道整備やカラー舗装、地区内を散策する上での休憩所(ポケットパーク)の整備、また情報板整備により、より回遊性の高いネットワークの形成ができたが、近鉄斎宮駅の南側の古い街並みが残っている伊勢街道も含めた回遊ネットワークが形成されていない。
 ・冠水対策の整備により、幹線排水路からの流末の河川への接続について整備が完了し、幹線道路周辺地域の冠水問題については解消したが、斎宮跡周辺地区内の一部の地域については、未だ台風や局地的な大雨には冠水し被害をもたらしている状態であり、地域住民だけでなく来訪者の安全確保が十分にされていない。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

・地域住民等が斎宮跡に対する愛着心をもてるまちづくりのために、地方創生推進交付金事業(内閣府)による「ホスピタリティ人材育成事業」を活用し、受入体制の充実を図りながらガイドボランティア増員の機運醸成を行い、継続した地域住民の参画に取り組む。
 ・明和町歴史的風致維持向上計画に基づく次期都市再生整備計画事業にて、斎宮跡周辺に点在する貴重な歴史的資源(観光資源)の整備と利便性の向上による回遊性の高いサイトミュージアムとしての高質空間の形成に取り組む。
 ・斎宮跡周辺地区の良好な生活環境整備の確保のために、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく次期都市再生整備計画事業にて、地域住民の日常生活の維持だけでなく、来訪者への被害を解消するために排水路整備による生活環境整備を行う。

都市再生整備計画 事後評価シート (添付書類)

(1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

(2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

(3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

(4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

(5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

(6) 評価委員会の審議

- 添付様式8 評価委員会の審議

(7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

(1) 成果の評価

添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値	●		①来館者数 85,000人/年	①来館者数 84,000人/年	①《マイナス要素》増加率 $\Delta 0.097$ 「史跡公園(八脚門広場)」…増加率 $\Delta 0.05$ 「史跡公園(祇戸広場)」…増加率 $\Delta 0.007$ 「幹線道路案内標識整備事業」…増加率 $\Delta 0.04$ 増加率 $2.0 - 0.097 = 1.903 \approx 1.9$ 従前値71,000人 $\times 1.19 \div$ 目標値84,000人
D. その他()					

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業							単位:百万円		
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(地)町道 坂本・斎宮線	30	L=600m	128	L=600m	交通管理者との協議の結果、道路法線の見直しが生じたことによる事業費の増額	影響なし	●	
公園	坂本古墳公園	85	A=約5,421㎡	59	A=約5,421㎡	工事完了の精算による事業費の減額	影響なし	●	
公園	史跡公園(八脚門広場)	12	A=約615㎡			関係機関との調整をするため別途調査が必要となり、整備時期を順延(後期計画に実施)するため事業費を削除	指標3「来館者数」にマイナス影響として、目標値設定に係る従前値からの増加率を△0.05とした		
公園	史跡公園(下園東区画広場)	242	A=約12,000㎡	228	A=約12,730㎡	建物実施計画による計画変更及び整備内容の見直しが生じたことによる事業費の減額	影響なし	●	
公園	史跡公園(祓戸広場)	328	A=約4,000㎡	71	A=約4,000㎡	河川管理者との協議の結果、公園事業の1つである橋梁工事施工時期の見直し(後期計画に実施)に伴う事業費の減額	指標3「来館者数」にマイナス影響として、目標値設定に係る従前値からの増加率を△0.007とした		●
公園	史跡公園(斎宮跡歴史ロマン広場)	48	A=約3,000㎡	205	A=約5,700㎡	中間評価(有識者)の意見より、施設内電柱を地中化する見直しが生じたことによる事業費の増額	影響なし	●	
公園	史跡公園(御館区画広場)			82	A=3,540㎡	来訪者の窓口となる斎宮駅に隣接した回遊拠点であるにも関わらず、多目的に利用できる広場が不足している現状であり、来訪者の利便性を向上させるため多目的広場の整備事業を追加	指標3「来館者数」に影響はあるが、目標値算定上端数処理となるため指標の目標値は据え置く。	●	
公園	史跡公園(篠林区画広場)			19	A=320㎡	広大な史跡内の様々な回遊ルート想定した史跡活用調査結果に基づき、利便性を高めるため、回遊ルート上の三差路コーナー2箇所に来訪者や町民が休憩できる東屋及び広場(ポケットパーク)の整備事業を追加	指標3「来館者数」に影響はあるが、目標値算定上端数処理となるため指標の目標値は据え置く。	●	
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	情報板整備(計画区域内全域)	21	30箇所	90	21箇所	史跡活用調査の結果に基づく、設置場所及び箇所数の変更と斎宮跡調査指導委員会との協議の結果、工法の見直しが生じたことによる事業の増加	影響なし		●
高質空間形成施設	斎宮跡景観形成	222	カラー舗装	239	カラー舗装	工事完了の精算による事業費の増額	影響なし		●

高質空間形成施設	散策道(柳原区画周辺散策道)	10	散策道整備	8	散策道整備	工事完了の精算による事業費の減額	影響なし	●	
高次都市施設	(仮称)齋宮跡地域交流センター	227	床面積約1,300㎡	221	A=880㎡	設計精査による面積の減、事業実施に伴う事業費の変更	影響なし	●	
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
街なみ環境整備事業									
街なみ環境整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要 ※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造 支援事業	幹線排水路等整備事業			10	L=20m	事業計画の見直しに伴い、幹線排水路等整備事業【効果促進事業】のうち都市再生整備計画重点区域内の整備箇所について地域創造支援事業に移行したことによる事業の追加	影響なし	●	
	史跡公園維持管理施設等整備事業			61	A=1,700㎡	事業計画の見直しに伴い、史跡公園維持管理施設整備事業【効果促進事業】のうち維持管理施設の建築工事について地域創造支援事業に移行したことによる事業の追加	影響なし	●	
事業活用調査									
まちづくり 活動推進事業									

※1: 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

(参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
関連社会資本 整備事業	幹線道路案内標識整備事業	幹線道路(国道、県道、町道)	47	16	平成25年度～平成26年度	平成25年度	史跡齋宮跡案内サイン等整備ガイドラインに基づき、幹線道路からの誘導案内標識を4箇所整備。	事業主体: 明和町
効果促進事業	齋宮駅史跡公園口整備	近鉄齋宮駅	25	27	平成25年度～平成26年度	平成25年度～平成26年度	近鉄齋宮駅の史跡公園側を開放し、史跡齋宮跡の玄関口にふさわしいイメージの形成に取り組むと共に、来訪者や地域住民の利便性を図るため案内休憩所を整備。	事業主体: 明和町
効果促進事業	幹線排水路等整備事業	字東前沖	156	208	平成27年度～平成29年度	平成26年度～平成27年度	齋宮跡周辺地区内の冠水等の災害を解消するため、史跡内から流末河川に至る幹線排水路を改修した。	事業主体: 明和町
効果促進事業	史跡公園維持管理施設等整備事業	-	36	3	平成25年度～平成26年度	平成25年度	史跡の維持管理のための管理機器、散水タンク等の収納庫の既存建物を撤去し、歴史的景観に配慮し、隣接地に再整備するための実施設計を作成。	事業主体: 明和町

効果促進事業	史跡活用調査	-	12	6	平成25年度～平成29年度	平成25年度	散策回遊コースの新設・誘導案内板の設置場所等を検討し、回遊性の向上についての調査考察及び事業計画の基礎方針のため実施。	事業主体：明和町
効果促進事業	伊勢街道歴史的建造物調査	伊勢街道沿い	20	20	平成25年度～平成27年度	平成25年度～平成27年度	重点区域内の4自治会の伊勢街道沿いの歴史的な趣の残る建造物を対象に実態調査を実施し、保全や保存に関する問題点や課題を整理した上で、保全及び保存・活用について整理。	事業主体：明和町
効果促進事業	史跡公園(下園東区画広場)整備事業((仮称)齋宮跡地域交流センター)	史跡公園(下園東区画広場)	21	0	平成26年度～平成27年度	-	他事業(歴史的風致維持国際観光支援事業)による整備。	事業主体：明和町
史跡東部整備事業(柳原区画)	柳原区画	-	-	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成27年度	都市再生整備計画重点区域内の柳原区画に実物大復元建物3棟を含む史跡公園(さいくう平安の杜)として三重県が整備。	事業主体：三重県	
史跡東部整備事業(古代伊勢道)	字塚山 外	-	-	平成23年度～平成27年度	平成23年度～平成27年度	都市再生整備計画重点区域内の古代伊勢道の一部を三重県が復元整備。	事業主体：三重県	
史跡公園(区画道路東加座中央道)整備事業	字東加座	10	10	平成26年度～平成27年度	平成26年度～平成27年度	文化庁公有化事業にて、一部用地買収済。用地交渉中。	事業主体：明和町	
史跡公園(区画道路下園・御館道)整備事業	字下園 外	5	5	平成28年度～平成29年度	平成28年度～平成29年度	文化庁公有化事業にかかる用地交渉中。平成30年度買収予定。	事業主体：明和町	
基幹排水路等整備事業	字田垣外、宮前 外	400	0	平成24年度～平成32年度	-	関連事業(道路)での実施が困難になったため事業の削除	事業主体：明和町	
齋宮駅史跡公園口整備事業(改札口等)	近鉄齋宮駅	-	-	平成25年度～平成26年度	平成25年度～平成26年度	近鉄齋宮駅の北口(改札等)を効果促進事業の齋宮駅史跡公園口整備と合わせ整備。	事業主体：明和町	
齋宮跡歴史観光講座事業	-	1	1	平成25年度～平成33年度	平成25年度～平成33年度	齋宮をテーマにした体験講座と齋宮歴史博物館シンポジウムを開催。	事業主体：明和町	
ガイドボランティア育成事業	-	1	1	平成25年度～平成33年度	平成25年度～平成33年度	齋宮歴史博物館の学芸員と共同でガイドボランティアのスキルアップのための講習会を毎月1回開催。	事業主体：明和町	
まちかど案内所等整備事業	伊勢街道沿い	20	20	平成27年度～平成29年度	平成27年度～平成29年度	まちかど案内所の入り口にのぼりを立てて、街道マップやパンフレットを設置。	事業主体：明和町	
まちかど案内所設置事業	伊勢街道沿い	1	1	平成26年度～平成33年度	平成26年度～平成33年度	来訪者が散策する道路沿いの店舗や民家の協力を得て、まちかど案内所を重点区域内に8箇所設置。	事業主体：明和町	
(仮称)齋王群行サミットの開催	-	1	1	平成25年度～平成33年度	平成25年度～平成33年度	都から齋宮、齋宮から都への齋王が通ったゆかりの市町と平成30年度開催に向け各関係市町と調整中である。亀山市、名張市、明和町の2市1町で準備会を設立。	事業主体：明和町	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	単位	(参考)※1 計画以前の値 (ア)		従前値 (イ)		目標値 (ウ)		数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の 達成見込みの 有無	
			基準 年度			基準 年度		目標 年度					あり	なし	
指標1	イベント(まつり)の参加人数	人/年	7,400	H23	7,400	H25	8,800	H29	モニタリング	10,730	H27	モニタリング	○		
									事後評価	見込み	9,950	事後評価	○		
指標2	ガイドボランティアの登録人数	人	24	H23	24	H25	48	H29	モニタリング	50	H27	モニタリング	○	●	
									事後評価	見込み	45	事後評価	×		
指標3	来館者数	人/年	70,916	H21	71,000	H25	84,000	H29	モニタリング	94,311	H27	モニタリング	○	●	
									事後評価	見込み	82,018	事後評価	×		

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	高質空間の形成と新たな施設である地域交流センターの完成により、平成29年度は文化庁主催の「日本の技体験フェア」を誘致し、観月会と同時開催した結果、例年以上の参加者で、目標達成につながった。また、今後のイベントにおいても、整備した齋宮跡周辺地区を一体として利用できるため、イベントの規模の拡大もできるメリットができた。	
指標2	事業の推進による来訪者の増加に伴い、齋宮跡に愛着と親しみが生まれ、地域住民から新たなガイドボランティアの増員が図られたが、メンバーの高齢化の問題が深刻化し、中間実績値(平成27年度)より減少したこと目標達成には至らなかった。	事業の推進と効果発現指標との関連性を考慮し、来訪者の増加に伴うガイドボランティアの案内件数を計測することで指標補完を行いたい。ただし、高齢化の問題については早急に対応するべく、平性28年度から実施している地方創生推進交付金事業にて、受入体制の充実を図りながら、ガイドボランティア増員の機運醸成を行い、地域住民の参画を目指しているところである。
指標3	計画的な公園整備及び高質空間形成の事業推進と、日本遺産認定、実物大復元建物3棟を含む「さいくう平安の杜」の完成も相乗効果となり、中間実績値(平成27年度)においては、明和町の観光入込客数は大幅に増加したが、平成27年度は条件が良すぎたことと、平成29年度は台風による災害の影響で行楽シーズンの入込客数が例年に比べ落ち込んだため、目標達成には至らなかった。	来館者数という指標を計測するうえで、災害や天候は大きく指標に影響する要因であるものの着実に来館者は増加していると分析できる。事業効果による回遊性の高い魅力的な高質空間とアクセス性の向上を判断するため、地区内の新たな施設である「さいくう平安の杜」や「地域交流センター」を含めた明和町全体の観光入込客数を計測することで指標補完を行いたい。

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○: 評価値が目標値を上回った場合

△: 評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×: 評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値(ア)		従前値(イ)		数値(ウ)			本指標を取り上げる理由	その他特記事項(指標計測上の問題点、課題等)	
			基準年度		基準年度		モニタリング	事後評価				
その他の数値指標1	ガイドボランティアの総案内件数	件/年	—	—	3,741	H25	モニタリング	確定	●	5,000	愛着をもって来訪者をガイド(おもてなし)をした件数を計測することにより、目標である「斎宮跡に魅力をより一層感じ、郷土に対する愛着をもてるまちづくり」に対する事業実施効果を測るため。	指標2を補完する。
							事後評価	見込み				
その他の数値指標2	観光客入込客数	人/年	—	—	187,320	H25	モニタリング	確定	●	220,268	目標である「高質空間の形成による、来訪者がまちの魅力を堪能できるまちづくり」に対する事業実施効果を測るため。	指標3を補完する。
							事後評価	見込み				

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・安全な歩行空間の整備により、歩行者の安全性が向上し、道路案内標識の的確な案内により交通の円滑化が向上している。
- ・統一された高質空間形成により、自発的に民間事業所施設の色彩統一がうながされている。
- ・公園整備等により、近隣住民の公園利用者が増えたことにより地域コミュニティが形成された。
- ・歴史的資源の公園整備とそれらを有機的に繋ぐ施設の整備などにより、愛着を持った地域住民のまちづくりへの参画があらわれた。

(2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
中間評価(観光客入込み客数調査)	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成28年3月 【実施結果】年間入込み客数は、平成25年度から着実に増え、中間評価時の平成27年度には20万人を超える来訪者があった。	今後は、中間評価時に住民からの意見も取り入れることを検討する。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
	予定どおり実施した		
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
国史跡斎宮跡協議会の開催(地元地権者、自治会代表者など42名で構成)	予定どおり実施した	● 【実施時期・回数】平成25年4月～平成29年12月末時点で、計51回開催 【実施結果】地元協議会と行政が連携しながら、協働による計画づくり、事業の検討や進捗状況など都市再生整備計画事業について協議したことにより、現状の認識を共有しながら事業を推進・実施することができた。	引き続き、官民連携による取組みを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		
地元自治会に対する事業説明会	予定どおり実施した	● 【実施時期】平成25年4月～平成29年12月の間に計12回開催 【実施結果】整備区域内の地元自治会に対し、都市再生整備整備事業の整備についての説明会を開催し、意見聴取した上で事業の推進・実施を図った。	引き続き、地元自治会への説明会を開催することで、理解と協力を得ながら取組みを進めていく。
	予定はなかったが実施した		
	予定したが実施できなかった (理由)		

添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i. 体制構築に向けた取組内容	ii. まちづくり組織名:組織の概要	
斎宮跡来訪者アップ連絡会	予定どおり実施した	● ・斎宮跡の魅力向上と来訪者の拡大を目標に、関係団体が情報共有する場を設け、課題・問題への対応策について協議することを目的に発足。	斎宮跡来訪者アップ連絡会 ・斎宮跡に関係する団体が、それぞれの役割のもと、情報の共有化、情報の発信、受入体制の充実等を図り、共通した目標である斎宮跡の魅力向上と来訪者拡大のための戦術、戦略の検討を行いまちづくりにつなげる。	引き続き、月1回の開催をすることで斎宮跡の魅力向上と来訪者拡大を目指す。
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			
	予定どおり実施した			
	予定はなかったが実施した			
	予定したが実施できなかった (理由)			

(3) 効果発現要因の整理

添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業検討会	・まち整備課 ・斎宮跡・文化観光課 文化財係 ・斎宮跡・文化観光課 文化観光係	平成29年12月1日	斎宮跡・文化観光課

添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標1	指標2	指標3	その他の数値指標1	その他の数値指標2					
指標名		イベント(まつり)の参加人数	ガイドボランティアの登録人数	来訪者数	ガイドボランティアの総案内件数	観光客入込客数					
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見				
基幹事業	(地)町道 坂本・斎宮線	◎	高質空間の形成と新たな施設である地域交流センターの完成により、平成29年度は文化庁主催の「日本の技体験フェア」を誘致し、観月会と同時開催した結果、例年以上の参加者で、目標達成につながった。また、今後のイベントにおいても、整備した斎宮跡周辺地区を一体として利用できるため、イベントの規模の拡大もできるメリットができた。	◎	都市再生整備計画事業をはじめとした各種事業効果により来訪者が増えたことにより、ガイドボランティアの増員が図られたが、新たにメンバーの高齢化の問題が深刻化し、中間実績より減少したことで目標達成には至らなかった。	◎	計画的な公園整備及び高質空間形成の推進と、日本遺産認定、実物大復元建物3棟を含む「さいくう平安の杜」の完成も相乗効果となり、明和町の入込客数は大幅に増加したが、平成29年度は台風の影響で行楽シーズンの入込客数が落ち込んだため、目標達成には至らなかった。	◎	都市再生整備計画事業をはじめとした各種事業効果により来訪者が増えたことにより、ガイドボランティアによる来訪者の案内件数は約5,000件と平成25年度に比べ約3割倍増加している。	◎	計画的な公園整備及び高質空間形成の推進と、地域交流センターの完成に加え、平成27年度の日本遺産認定、実物大復元建物3棟を含む「さいくう平安の杜」の完成も相乗効果となり、明和町の入込客数は約21万人と着実に増加傾向にある。
	坂本古墳公園	◎		◎		◎		◎			
	史跡公園(八脚門広場)	△		△		△		△			
	史跡公園(下園東区画広場)	◎		◎		◎		◎			
	史跡公園(祇戸広場)	○		○		○		○			
	史跡公園(斎宮跡歴史ロマン広場)	◎		◎		◎		◎			
	史跡公園(御館区画広場)	◎		◎		◎		◎			
	史跡公園(篠林区画広場)	○		○		○		○			
	情報板整備(計画区域内全域)	◎		◎		◎		◎			
	斎宮跡景観形成	○		○		○		○			
提案事業	散策道(柳原区画周辺散策道)	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	(仮称)斎宮跡地域交流センター	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
関連社会資本整備事業	幹線排水路等整備事業	○	○	-	○	-	○				
	史跡公園維持管理施設等整備事業	○	○	○	○	○	○				
効果促進事業	幹線道路案内標識整備事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	斎宮駅史跡公園口整備	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	幹線排水路等整備事業	○	○	-	○	-	○				
	史跡公園維持管理施設等整備事業	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	史跡活用調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
関連事業	伊勢街道歴史的建造物調査	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	史跡公園(下園東区画広場)整備事業((仮称)斎宮跡地域交流センター)	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	史跡東部整備事業(柳原区画)	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	史跡東部整備事業(古代伊勢道)	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	史跡公園(区画道路東加座中央道)整備事業	○	○	-	○	-	○				
	史跡公園(区画道路下園・御館道)整備事業	○	○	-	○	-	○				
	基幹排水路等整備事業	◎	◎	-	◎	-	◎				
	斎宮駅史跡公園口整備事業(改札口等)	◎	◎	◎	◎	◎	◎				
	斎宮跡歴史観光講座事業	-	○	-	○	-	○				
	ガイドボランティア育成事業	-	◎	-	◎	-	◎				
まちかど案内所等整備事業	-	-	-	○	-	○					
まちかど案内所設置事業	-	-	-	○	-	○					
(仮称)斎王群行サミットの開催	△	△	△	△	△	△					

※指標改善への貢献度
 ◎：事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。
 ○：事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。
 △：事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善に貢献しなかった。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	今後の活用	今後の活用	今後の活用	今後の活用	今後の活用
今後のイベントにおいても、整備した斎宮跡周辺地区を一体として利用するとともにイベントの規模の拡大も検討する。	今後も、受入体制の充実を図りながら、ガイドボランティア増員の機運醸成を行い、継続した地域住民の参画に取り組む。	来訪者に向けて、整備に合わせた新たな回遊ルートの散策マップを作成するなど、よりまちの魅力と堪能できるまちづくりに取り組む。	来訪者に向けて、整備に合わせた新たな回遊ルートの散策マップを作成するなど、よりまちの魅力と堪能できるまちづくりに取り組む。	来訪者に向けて、整備に合わせた新たな回遊ルートの散策マップを作成するなど、よりまちの魅力と堪能できるまちづくりに取り組む。	来訪者に向けて、整備に合わせた新たな回遊ルートの散策マップを作成するなど、よりまちの魅力と堪能できるまちづくりに取り組む。

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別													
指標名													
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業													
提案事業													
効果促進事業													
関連事業													

※目標未達成への影響度
 ××：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。
 ×：事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。
 △：数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。
 -：事業と指標の間には、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類
 分類Ⅰ：内的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅱ：外的な要因で、予見が可能な要因。
 分類Ⅲ：外的な要因で、予見が不可能な要因。
 分類Ⅳ：内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)				
------------------	--	--	--	--

(4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
都市再生整備計画事業検討会	<ul style="list-style-type: none"> ・まち整備課 ・齋宮跡・文化観光課 文化財係 ・齋宮跡・文化観光課 文化観光係 	平成29年12月1日	齋宮跡・文化観光課

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載 したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した 新たな課題
齋宮跡に対する地域住民等の愛着心	事業の推進による来訪者の増加に伴い、齋宮跡に愛着と親しみが生まれ、地域住民から新たなガイドボランティアの増員が図られた。	新たな問題として、メンバーの高齢化の問題が深刻化してきている。	なし
回遊性の高いネットワークの形成	齋宮駅北口の周辺整備や多目的広場、坂本古墳公園整備、地域交流センターの整備などで、有機的に繋ぐ施設の整備と活用が図られた。また、近鉄齋宮駅から北側の散策道整備やカラー舗装、地区内を散策する上での休憩所(ポケットパーク)の整備、また情報板整備により、より回遊性の高いネットワークの形成ができた。	齋宮跡周辺地区には、地域住民によって守られてきた貴重な歴史的資源(観光資源)がまだ数多く点在していて、最大限に有効活用できていない。また、近鉄齋宮駅の南側の古い街並みが残っている伊勢街道も含めた回遊ネットワークが形成されていない。	
文化財保護と良好な生活環境整備の確保との調和	冠水対策の整備により、幹線排水路からの流末の河川への接続について整備が完了し、幹線道路周辺地域の冠水問題については解消した。	齋宮跡周辺地区内の一部の地域については、未だ台風や局地的な大雨には冠水し被害をもたらしている状態である。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
A欄 効果を持続させるため に行う方策	受入体制の整備	受入体制の充実を図りながら、ガイドボランティア増員の機運醸成を行い、継続した地域住民の参画に取り組む。	地方創生推進交付金事業(内閣府)による「ホスピタリティ人材育成事業」
	多言語誘導案内板の整備	歴史的資源(観光資源)の誘導案内として、重点区域外の地域についても多言語誘導案内板の整備を実施する。	歴史的風致維持向上計画国際観光支援事業(国土交通省)による「多言語誘導案内板の設置事業」
	斎宮跡地内を回遊するための散策マップの作成	来訪者に向けて、整備に合わせた新たな回遊ルートの散策マップを作成する。	町単事業

	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
B欄 改善策 ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	地域ぐるみでの受入体制の整備	受入体制の充実を図りながら、ガイドボランティア増員の機運醸成を行い、継続した地域住民の参画に取り組む。	地方創生推進交付金事業(内閣府)による「ホスピタリティ人材育成事業」
	回遊性の高いサイトミュージアムとしての高質空間の形成	斎宮跡周辺に点在する貴重な歴史的資源(観光資源)の整備と利便性の向上による回遊性の高いサイトミュージアムとしての高質空間の形成に取り組む。	明和町歴史的風致維持向上計画に基づく次期都市再生整備計画事業
	良好な生活環境整備の確保	地域住民の日常生活の維持だけでなく、来訪者への被害を解消するために排水路整備による生活環境整備を行う。	明和町歴史的風致維持向上計画に基づく次期都市再生整備計画事業

フォローアップ又は次期計画等
において実施する改善策
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

●	交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
●	事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
●	数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
●	数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
●	残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

斎宮跡周辺地区において、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく次期都市再生整備計画にて、引き続き「斎宮跡」を核とした地域活性化と歴史・文化、観光資源を活かしたまちづくりを推進する。

添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に関わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指標		単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無		フォローアップ計画			
			年度	年度	年度	年度						予定時期	計測方法	その他特記事項	
指標1	イベント(まつり)の参加人数	人/年	7,400	H25	8,800	H29	確定 ●	9,950	○	あり		→	—	—	—
							見込み			なし					
指標2	ガイドボランティアの登録人数	人/年	24	H25	48	H29	確定 ●	45	×	あり ●		→	平成31年3月	来訪者に対し、齋宮跡周辺地区を案内している平成30年度ガイドボランティアの登録数の総数を測定する。	指標補完のため、その他指標1で効果計測している。
							見込み			なし					
指標3	来館者数	人/年	71,000	H25	84,000	H29	確定 ●	82,018	×	あり ●		→	平成31年3月	齋宮跡周辺地区内施設の県立齋宮歴史博物館、いつきのみや歴史体験館の平成30年年間来館者数を測定する。	指標補完のため、その他指標2で効果計測している。
							見込み			なし					
その他の数値指標1	ガイドボランティアの総案内件数	件/年	3,741	H25	/		確定 ●	5,000	/		→	平成31年3月	平成30年度のガイドボランティアの総案内件数を計測する。	—	
その他の数値指標2	観光客入込客数	人/年	187,320	H25	/		確定 ●	220,268	/		→	平成31年3月	平成30年の明和町観光入込客数を計測する。	—	

添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	高質空間の形成と新たな施設である地域交流センターの完成により、平成29年度は文化庁主催の「日本の技体験フェア」を誘致し、観月会と同時開催した結果、例年以上の参加者で、目標達成につながった。 今後のイベントにおいても、整備した斎宮跡周辺地区を一体として利用できるため、イベントの規模の拡大もできるメリットができた。	整備計画にて整備した散策回遊コース、案内誘導サイン等の回遊性について更に分析・効果検証を行い、史跡の活用とまちの魅力を堪能できるまちづくりに活かすことで来訪者アップの増加を図る。 また、ガイドボランティアの高齢化の問題については早急に対応するべく、平成28年度から実施している地方創生推進交付金事業にて、受入体制の充実を図りながら、ガイドボランティア増員の機運醸成を行い、地域住民の参画を目指す。
	うまくいかなかった点	計画的な公園整備及び高質空間形成の事業推進と、日本遺産認定、実物大復元建物3棟を含む「さいくう平安の杜」の完成も相乗効果となり、中間実績値(平成27年度)においては、明和町の観光入込客数は大幅に増加したが、平成27年度は条件が良すぎたことと、平成29年度は台風による災害の影響で行楽シーズンの入込客数が例年に比べ落ち込んだため、目標達成には至らなかった。 また、事業の推進による来訪者の増加に伴い、斎宮跡に愛着と親しみが生まれ、地域住民から新たなガイドボランティアの増員が図られたが、メンバーの高齢化の問題が深刻化し、中間実績値(平成27年度)より減少したことで目標達成には至らなかった。	
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点	数値目標の指標を「来訪者数」としたことは、来訪者がまちの魅力を十分に堪能できるまちづくりという目標を測る上では適正であった。	次期計画では、事業効果による回遊性の高い魅力的な高質空間とアクセス性の向上を判断するため、地区内の新たな施設である「さいくう平安の杜」や「地域交流センター」を含めた施設の「来訪者数」を指標として設定し、観光施策と連携した事業展開ができるよう努める。
	うまくいかなかった点	指標である「来訪者数」を増加させるには、斎宮跡の情報発信も不可欠であり、整備計画の進捗にそった情報戦略も必要であると感じた。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	地元協議会と行政が連携しながら、協働による計画づくり、事業の検討や進捗状況など都市再生整備計画事業について協議したことにより、現状の認識を共有しながら事業を推進・実施することができた。	今後も、計画やまちづくりに住民意見を取り入れ、官民連携による取り組みを進めていく。
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	事業進捗状況については、有識者が委員に属する明和町歴史的風致維持向上計画協議会にて、年1回事業の進捗状況を報告するとともに評価に対する意見をいただき、課題を整理し、計画変更を実施する。PDCAサイクルによる事業を展開してきた。	今後も、同じようなPDCAサイクルによる評価の進め方による事業を推進する。
	うまくいかなかった点		
その他	うまくいった点		
	うまくいかなかった点		

添付様式6－参考記述 今後、都市再生整備計画事業の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区の次期計画も含む)

齋宮跡周辺地区において、明和町歴史的風致維持向上計画に基づく、都市再生整備計画(齋宮跡周辺地区)の第二期計画を平成30年度～平成32年度まで実施予定。

(5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	町のホームページに掲載	平成30年2月1日～2月15日	平成30年2月1日～2月15日	担当課への郵便、電話、電子メール、FAX等	齋宮跡・文化観光課
広報掲載・回覧・個別配布	広報めいわに掲載(町ホームページ及び齋宮跡・文化観光課で供覧している旨を掲載)	平成30年2月号	—		
説明会・ワークショップ	明和町歴史的風致維持向上計画協議会での意見交換	平成30年2月21日	—		
その他	齋宮跡・文化観光課窓口において供覧	平成30年2月1日～2月15日	平成30年2月1日～2月15日		

住民の意見	意見無し				
-------	------	--	--	--	--

(6) 評価委員会の審議

添付様式8 評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	京都橋大学文学部教授 増淵 徹 三重大学大学院工学研究科准教授 浅野 聡 明和町文化財保護審議会会長 下村 登良男 明和町文化財保護審議会委員 高橋 徹	平成30年2月21日開催	斎宮跡・文化観光課	明和町歴史風致維持 向上計画協議会設置要 綱	明和町歴史的風致維持 向上計画協議会
その他の委員	三重県教育委員会社会教育・文化財保護課長 山本 寛二 三重県環境生活部文化振興課長 高野 吉雄 三重県県土整備部都市政策課長 枅屋 武 国史跡斎宮跡協議会会長 中川 肇二 (公財)国史跡斎宮跡保存協会理事長 大和谷 正 明和町観光協会会長 東谷 泰明 斎宮ガイドボランティア会長 田所 秀明 史跡斎宮跡・伊勢街道まちづくり会会長 永島 喬 明和町副町長 寺前 和彦				

審議事項※1		委員会の意見
事後評価手 続き等にか かる審議	方法書	・特になし
	成果の評価	・指標2については、斎宮跡地内で観光客をもてなそうとする人をすべて含めているのかが分かりにくい表記である。事業を実施することにより、斎宮跡に愛着と親しみが生まれ、郷土に誇りを持って来訪者をもてなそうとする地域住民も含めた総数を計測し、表記するべきではないかという意見があった。 ・整備によって、斎宮駅の北口が開放され、休憩施設ができたことは非常に評価ができるが、近鉄駅敷地内のトイレの改修も今後取り組んでほしいという意見があった。 ・近鉄斎宮駅の乗降客数についても、評価の指標や観光客の動向として利用できるのではないかという意見があった。
	実施過程の評価	・特になし
	効果発現要因の整理	・地域住民の参画として、愛着を持った地元住民の新たな組織が生まれたことは指標では表せない良い成果であるという意見があった。
	事後評価原案の公表の妥当性	・事後評価原案の公表が適切に行われたことが確認された。
	その他	・特になし
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	・事後評価の手続きは妥当であると確認された。
今後のまち づくりにつ いて審議	今後のまちづくり方策の作成	・次期計画においては、事業効果による回遊性の高い高質空間の向上を判断するため、今回の整備計画で整備された施設を含めた来館者数を指標とし計測するのが望ましいという意見があった。
	フォローアップ	・特になし
	その他	・特になし
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	・今後のまちづくりの方策は妥当であると確認された。
その他	・特になし	

(7) 有識者からの意見聴取

添付様式9 有識者からの意見聴取

・この様式は、効果発現要因の整理(添付様式5)、今後のまちづくり方策の検討(添付様式6)、評価委員会の審議(添付様式9)以外の機会に、市町村が任意に有識者の意見聴取を行った場合に記入して下さい。

意見聴取した有識者名・所属等	実施時期	担当部署

有識者の意見	
--------	--

都市再生整備計画(第4回変更)

さいくうあとしゅうへん
齋宮跡周辺地区

みえけん めいわちょう
三重県 明和町

平成29年9月

様式1 目標及び計画期間

都道府県名	三重県	市町村名	明和町	地区名	齋宮跡周辺地区	面積	215 ha
計画期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度	交付期間	平成 25 年度 ~ 平成 29 年度				

目標 「齋宮跡」を核とした地域活性化と歴史・文化、観光資源を活かしたまちづくり ・齋宮跡地区内外の町民が齋宮跡の魅力により一層感じ、郷土に対する愛着を持てるまちづくり ・貴重な歴史的資産と豊かな自然環境を活かした高質空間の形成による、来訪者がまちの魅力を十分に堪能できるまちづくり
--

目標設定の根拠 まちづくりの経緯及び現況 <p>明和町の面積は40.92km²、人口は23,341人(平成24年4月1日現在)で、三重県の中央部を構成する伊勢平野の南部に位置し、北は伊勢湾に面し延長7.5kmの海岸線を有している。大部分が平野で、西には榊田川の分流である祓川、中央部を笹宮川、東を大堀川が南北に流れ、水田の広がる農業地域となっている。</p> <p>本町は松阪市と伊勢市の中間に位置する立地条件から、近年住宅開発が進むなど土地利用の転換が見られ、一部には工業団地や大規模商業施設等が集積してきている。その一方で市街地は形成されておらず、住宅、商業、工業、農業等の土地利用が混在している。</p> <p>齋宮には古代から中世にかけて、伊勢神宮に仕えるための齋王の御殿とその事務を取り扱う施設が置かれ、京の都、伊勢神宮にとって重要な場所となっていた。齋王制度が廃止された後においても、参宮への街道が齋宮があった場所を横切り、伊勢神宮への参拝客によって賑わいを見せるなど、伊勢神宮との係わりが深い地域となっていた。「齋宮跡」は昭和54年に国史跡指定を受け、今でも発掘調査が続けられている。その発掘調査の過程において、幅約15mの区画道路で一辺120mに区画された、東西に7列、南北に4列の「方格地割」と呼ばれる基盤目状の都市的な区画跡が確認された。また、町内には多くの古墳が残っており、古墳群を形成している。</p> <p>昭和55年3月に「史跡齋宮跡保存管理計画」、平成8年3月に「史跡齋宮跡整備基本構想」が策定され、それらに基づき、齋宮跡の保護、保存、整備が進められてきた。平成元年に齋宮歴史博物館、平成11年にいつきのみや歴史体験館といった、様々な学習や体験ができる施設が三重県により整備された。</p> <p>平成24年6月6日に「地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律」に基づき、明和町歴史的風致維持向上計画が認定され、齋宮跡周辺地区を重点区域として歴史的風致の維持及び向上のための取り組みを進めている。</p>

課題 <p>齋宮跡は建物跡などの遺構が地下に埋まっていることから齋宮の実態をとらえ難く、その地に暮らす地域住民等にとって、愛着をもてていない。町内には国史跡齋宮跡のほか、坂本古墳群をはじめ多数の古墳群といった歴史的資源が点在しているが、それらを有機的に繋ぐ施設の整備が乏しく、貴重な多くの歴史的資源を上手く活かしていきれていないことが課題である。そのため、全国はもとより、県内においてもその認知度が低い状態である。さらに、地区内を散策する上での休憩所、散策道等の整備が十分でなく、広い史跡内を回遊するための設備環境が不十分なため、観光は通過型がほとんどであることから、回遊性の高いネットワークの形成が必要である。</p> <p>町内の趣の残る歴史的建造物等も十分な管理が行き届かず損傷しているものや取り壊されるものも見られ、徐々に減りつつある。ガードレールや各種標識柱等が史跡等の景観を阻害し、歴史的雰囲気損なっていることも課題となっている。</p> <p>また、齋宮跡はあまり人の手が加えられことなく地域住民に守られ受け継がれてきたため、生活環境整備が遅れている。特に台風や局地的な大雨には冠水し被害をもたらしている。文化財保護と地域住民の日常生活の維持や良好な環境整備の確保をどのように調和させていくのが課題である。</p> <p>それらを一体的に整備し、歴史・文化、観光資源を活かした高質空間を形成することにより、町民や来訪者が齋宮の魅力を実感し、堪能できるまちづくりが求められている。</p>
--

将来ビジョン(中長期) <p>第5次明和町総合計画(平成23年3月策定)ではまちの将来像を、歴史・文化と自然が輝き快適でこころ豊かな「和のまち」の実現を掲げ、更に、次代を担う子どもたちに本町の貴重な歴史・文化と恵まれた自然を守り育て継承し、快適に暮らせる心あたりのまちづくりを進めていくこととしている。特に齋宮跡を核としたまちづくりを展開し、快適な生活環境の形成と多くの町外の人々に訪れてもらうための施策の推進と、本町に残る文化財に住民が親しみをもち郷土愛を深めるよう活用と啓発の実施を位置付けている。</p> <p>明和町都市計画マスタープラン(平成23年3月改定)では、まちづくりの基本方針の一つを「自然・歴史・文化の保全・活用」とし、齋宮跡を歴史・文化拠点とし、齋宮跡一帯における施設、景観整備を位置付けている。更に、齋宮跡を文化財として保全と観光・活性化に向けた資源の活用を合わせて図っていくこととしている。</p> <p>明和町観光振興計画(平成23年3月策定)では、将来像を「歴史と自然が彩るおもてなしのまち」とし、齋宮跡周辺の環境整備を展開し、癒しの空間づくりを行っていくこととしている。</p> <p>史跡齋宮跡整備基本構想(平成8年3月策定)では、齋宮跡をサイトミュージアムとして一体的に整備していくことが位置付けられている。</p> <p>明和町歴史的風致維持向上計画(平成24年6月6日認定)では、齋宮跡周辺地区を重点区域として向こう9年間で、歴史的風致の維持及び向上のための各事業を展開していくことが位置付けられている。</p>
--

目標を定量化する指標								
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度	
イベント(まつり)の参加人数	人/年	毎年地区内で開催される地域住民参加を主目的としたまつりである十五夜観月会、齋宮浪漫まつり、追儺のまつり、齋宮梅まつりの4つのまつりの参加・来場者の総数	高質空間の形成により郷土に魅力を感じ愛着を持つ人が増え、イベント(まつり)の参加人数の増加になる。	7,400	平成25年度	8,800	平成29年度	
ガイドボランティアの登録人数	人	齋宮跡ガイドボランティアの登録者の総数	事業を実施することにより、齋宮跡に愛着と親しみが生まれ、郷土に誇りを持って、来訪者をもてなそうとするガイドボランティアの増加になる。	24	平成25年度	48	平成29年度	
来館者数	人/年	齋宮歴史博物館・いつきのみや歴史体験館の年間来館者の総数	回遊性の高い魅力ある高質空間の形成とアクセス性の向上を図ることにより来訪者の増加に繋がり、地区内の施設の来館者数の増加になる。	71,000	平成25年度	84,000	平成29年度	

様式2 整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(斎宮跡の魅力を一層感じ、郷土に対する愛着を持てるまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民に憩い空間を提供するため、歴史的資源を史跡公園として整備する。また、地域住民相互・住民と来訪者との交流、斎宮跡に関する情報発信、来訪者への情報提供を目的とし、地域活性化の拠点となる地域交流センターを史跡公園(下園東区画広場)内に整備する。 ・幹線排水路の改修を行い、史跡地内の冠水を防ぐことで地域住民の被害を解消する。 ・斎宮跡関連建造物を整備するとともに周辺環境整備を行い、地域住民の歴史文化に対する意識の向上を図る。 ・地域住民を対象にした歴史・文化財・観光についての講座等を開催すると同時に、斎宮跡への愛着と親しみを持ち郷土に誇りを持って、来訪者をもてなすガイドボランティアの育成を行う。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公園:坂本古墳公園、史跡公園(下園東区画広場)、史跡公園(菟戸広場)、史跡公園(斎宮跡歴史ロマン広場)、史跡公園(御館区画広場)、史跡公園(篠林区画広場) ・高次都市施設(地域交流センター):(仮称)斎宮跡地域交流センター □提案事業 ・地域創造支援事業:基幹排水路等整備事業 ○関連事業(効果促進事業) ・幹線排水路等整備事業 ○関連事業 ・史跡東部整備事業(柳原区画)(県) ・史跡東部整備事業(古代伊勢道)(県) ・史跡公園(区画道路東加座中央道)整備事業 ・史跡公園(区画道路下園・御館道)整備事業 ・史跡公園(西加座南区画広場)整備公有化事業 ・斎宮跡歴史観光講座事業 ・ガイドボランティア育成事業
<p>整備方針2(高質空間の形成による、まちの魅力を十分に堪能できるまちづくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的資源を史跡公園として整備すると同時に、点在する歴史的資源や関連施設等を繋ぐ史跡公園内園路や歩道、サイン・案内板を景観に配慮しつつ整備し、地域住民および来訪者が安全で快適に斎宮跡地内を回遊できる環境を整備する。 ・道路等の周辺環境について、歴史的趣に配慮したガードレールや各種標識柱等の美化化を行う。 ・斎宮跡地区へのアクセスの利便性と安全性向上のための案内標識を幹線道路に整備する。 ・来訪者の利便性の向上と斎宮跡の玄関口としてのイメージアップを図るため、近鉄斎宮駅史跡公園口(北口)を開放するとともに、案内所等の施設を整備する。 ・史跡公園の維持管理のための管理機器等の収納庫等施設を周辺の景観に配慮して整備する。 ・散策回遊コースの新設・案内誘導サインの設置検討等回遊性の向上についての調査及び事業効果の分析・検証を行い、史跡の活用とよりまちの魅力を増進できる高質空間の形成を推進するとともに、今後のまちづくりに活かす。 ・伊勢街道沿いの歴史的な趣の残る建造物を対象に実態調査を実施し課題や保存方法等を整理する。 ・斎宮跡関連建造物を整備するとともに周辺環境整備を行い、ガイドボランティアによる案内等も行い、来訪者へサイトミュージアムとしての高質空間を提供する。 ・歴史的な趣のある建築物を修理・改修し、来訪者のまちかど案内所・休憩所として整備する。また、散策する道路沿いの店舗や民家にハンフレットやマップを備え付けてもらい、まちかど案内所として開設する。 ・歴史観光講座や(仮称)斎王群行サミットを開催し、斎宮を全国にPRする。 	<p>■基幹事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路:(地)町道 坂本・斎宮線 ・公園:坂本古墳公園、史跡公園(下園東区画広場)、史跡公園(菟戸広場)、史跡公園(斎宮跡歴史ロマン広場)、史跡公園(御館区画広場)、史跡公園(篠林区画広場) ・地域生活基盤施設(情報板):情報板整備(計画区域内全域) ・高質空間形成施設(緑化施設等):斎宮跡景観形成、散策道整備(柳原区画周辺散策道) □提案事業 ・地域創造支援事業:史跡公園維持管理施設等整備事業 ○関連事業(関連社会資本整備事業) ・幹線道路案内標識整備事業 ○関連事業(効果促進事業) ・斎宮跡史跡公園口整備事業 ・史跡公園維持管理施設等整備事業 ・史跡活用調査 ・伊勢街道歴史的建造物調査 ○関連事業 ・史跡東部整備事業(柳原区画)(県) ・史跡東部整備事業(古代伊勢道)(県) ・史跡公園(区画道路東加座中央道)整備事業 ・史跡公園(区画道路下園・御館道)整備事業 ・史跡公園(西加座南区画広場)整備公有化事業 ・斎宮跡史跡公園口整備事業(改札口等) ・斎宮跡歴史観光講座事業 ・まちかど案内所等整備事業 ・まちかど案内所設置事業 ・(仮称)斎王群行サミットの開催
<p>その他</p>	

<都市再生整備計画の整備方針等>

【記入要領】

・必要であれば適宜欄の拡大、行の追加をすること。

・「計画区域の整備方針」欄は、目標を達成するために具体的に何をするのかを簡潔に箇条書きするとともに、欄の右にある「方針に合致する主要な事業」欄に、本計画に位置付けられている事業のうち当該整備方針に合致する主要な事業の事業名を記入すること(1つの事業が複数の方針に合致することもあり得る)。

様式3 目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項

交付対象事業費	1,421	交付限度額	639.4	国費率	0.45
---------	-------	-------	-------	-----	------

(金額の単位は百万円)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費		費用便益比B/C
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分	
道路		(地)町道 坂本・斎宮線	明和町	直	L=600m	H25	H28	H25	H28	128	128	128	128	—
公園		坂本古墳公園	明和町	直	A=5,421㎡	H25	H28	H25	H28	59	59	59	59	—
公園		史跡公園(下園東区画広場)	明和町	直	A=12,730㎡	H25	H29	H25	H29	228	228	228	228	—
公園		史跡公園(萩戸広場)	明和町	直	A=4,000㎡	H27	H29	H27	H29	71	71	71	71	—
公園		史跡公園(斎宮跡歴史ロマン広場)	明和町	直	A=5,700㎡	H25	H29	H25	H29	205	205	205	205	—
公園		史跡公園(御館区画広場)	明和町	直	A=3,540㎡	H26	H27	H26	H27	82	82	82	82	—
公園		史跡公園(篠林区画広場)	明和町	直	A=320㎡	H27	H28	H27	H28	19	19	19	19	—
地域生活基盤施設(情報板)		情報板整備(計画区域内全域)	明和町	直	21箇所	H25	H29	H25	H29	90	90	90	90	—
高質空間形成施設(緑化施設等)		斎宮跡景観形成	明和町	直	—	H25	H29	H25	H29	239	239	239	239	—
高質空間形成施設(緑化施設等)		散策道(柳原区画周辺散策道)	明和町	直	—	H25	H28	H25	H28	8	8	8	8	—
高次都市施設(地域交流センター)		(仮称)斎宮跡地域交流センター	明和町	直	A=880㎡	H27	H28	H27	H28	221	221	221	221	—
合計										1,350	1,350	1,350	0	1,350

…A

提案事業(継続地区の場合のみ記載)

事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	交付対象事業費	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度			うち官負担分	うち民負担分
地域創造	幹線排水路等整備事業	字東前沖 外	明和町	直	L=20m	H27	H27	H27	H27	10	10	10	10
支援事業	史跡公園維持管理施設等整備事業	字下園	明和町	直	A=1,700㎡	H27	H27	H27	H27	61	61	61	61
事業活用調査													
まちづくり活動推進事業													
合計										71	71	71	0

…B

合計(A+B) 1,421

(参考)関連事業

事業	事業箇所名	事業主体	所管省庁名	規模	(いずれかに○)				事業期間		全体事業費
					直轄	補助	地方単独	民間	開始年度	終了年度	
幹線道路案内標識整備事業【関連社会資本整備事業】	幹線道路(国道、県道、町道)	明和町	国土交通省	4箇所		○			H25	H25	16
斎宮駅史跡公園口整備【効果促進事業】	近鉄斎宮駅	明和町	国土交通省	床面積A=84.47㎡		○			H25	H26	27
幹線排水路等整備事業【効果促進事業】	字稲木山 外	明和町	国土交通省	L=700m		○			H26	H27	208
史跡公園維持管理施設等整備事業【効果促進事業】	—	明和町	国土交通省	A=1,700㎡		○			H25	H25	3
史跡活用調査【効果促進事業】	—	明和町	国土交通省	—		○			H25	H25	6
伊勢街道歴史的建造物調査【効果促進事業】	伊勢街道沿い	明和町	国土交通省	L=6,000m		○			H25	H27	20
史跡東部整備事業(柳原区画)	柳原区画	三重県	文化庁	A=27,500㎡		○			H23	H27	—
史跡東部整備事業(古代伊勢道)	字塚山 外	三重県	文化庁	L=350m		○			H23	H27	—
史跡公園(区画道路東加座中央道)整備事業	字東加座	明和町	文化庁	L=250m W=15m		○			H26	H27	10
史跡公園(区画道路下園・御館道)整備事業	字下園 外	明和町	文化庁	L=130m W=15m		○			H28	H29	5
史跡公園(西加座南区画広場)整備公有化事業	字西加座	明和町	文化庁	A=1,200㎡		○			H26	H27	200
斎宮駅史跡公園口整備事業(改札口等)	近鉄斎宮駅	明和町	—	1箇所			○		H25	H26	—
斎宮跡歴史観光講座事業	—	明和町	—	—			○		H25	H33	1
ガイドボランティア育成事業	—	明和町	—	—			○		H25	H33	1
まちかど案内所等整備事業	伊勢街道沿い	明和町	—	1箇所			○		H27	H29	20
まちかど案内所設置事業	伊勢街道沿い	明和町	—	—			○		H26	H33	1
(仮称)斎王群行サミットの開催	—	明和町	—	—			○		H25	H33	1
合計											519

<交付対象事業等一覧表>

※本シートを都市再生整備計画につける必要はない

【記入要領】

- ・灰色のセルは関数により自動計算される部分を表しているため、灰色のセルには手を加えないこと。
- ・同一事業で複数の事業箇所がある場合(地区内に道路事業が複数路線ある場合等)は、適宜行を追加すること(2枚にまたがっても構わない。)。ただし、地域生活基盤施設、高質空間形成施設、高次都